

「ママって呼んでいいんでしょ？」 縁あって、家族

朝日新聞 2015年4月7日 山本奈朱香記者



生みの親が育てられない子どもが、新しい親と家族になる特別養子縁組。この縁組で結ばれた家族のもとで育った近藤愛（あき）さん（22）が今春、大学院へ進んだ。多くの子どもが家庭で暮らせる社会を目指し、児童福祉の研究を進める。

3月20日、愛さんは同志社大学（京都市）の卒業式に臨んだ。福井県から駆けつけた母親の文恵さん（70）は、振り袖姿の愛さんを見つめ、「写真撮る時にポーズする顔、小さい頃から全然変わってない」とほほえんだ。

愛さんは生後6カ月の時、里子として近藤家に来た。

「最初は赤ちゃんという感じじゃなかった」と文恵さん。笑わない。夜も寝付かずに暗闇でじっとしていた。

当時、近藤家には成人から高校生まで4人の子がいた。年の離れた妹としてかわいがられるうち、3週間後にはキャハハ、と声を出して笑うように。

その後、特別養子縁組を結び、法的にも家族になった。

幼稚園に入った愛さんに文恵さんは、血のつながった親子ではないことを打ち明けた。「他人から言われたら傷つく」と思ったからだ。

愛さんが好きだったシンデレラの魔法の言葉を使い、「ビビデバビデブーって、うちにきたんだよ。神様が大切なあーちゃんを下さった。だから、私は愛のお母さんなんだよ」と。

愛さんは話の途中で「ママなんか大っ嫌い」と逃げ出したが、最後は「でも、ママって呼んでいいんでしょ？」と泣きじゃくった。

写真は、同志社大学の卒業式に出席した近藤愛さんと母・文恵さん

＝3月20日午後、京都市上京区、細川卓撮影